

交差点 98号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会

令和3年12月

まあだだよ ベルトみんなが しめるまで

イヤホンを 外して聴いて 町の音

内閣府特命担当大臣賞（優秀作）

「令和3年使用交通安全年間スローガン」（全日本交通安全協会・毎日新聞社）より



冬の交通安全について保護者の皆様へ

もうすぐ、楽しい冬休みがスタートします。

子どもたちには、冬休みを元気に楽しく過ごしてもらいたいものですが、冬は降雪や路面凍結の影響などにより、危険な交通事故が発生するおそれのある季節です。

令和3年11月20日現在、札幌市内で発生した交通事故による死者数は16人で、前年より9人減少していますが、事故発生件数（3,510件、前年比：+81件）及び傷者数（3,980人、前年比：+163人）については増加しており、交通事故がなかなか減少しないという状況にあります。（※数値は概数となっています。）

交通事故防止のためには、日々の心がけがとても大切です。冬休みを迎える前に、ぜひご家庭で子どもたちと一緒に交通安全について話し合い、事故のない楽しい冬休みをお過ごしください。

中学生以下の子どもの交通事故発生状況（令和2年12月～令和3年2月）

交通事故傷者数：40人（前年比+14人）

うち四輪同乗中の傷者数：20人（前年比+4人）

図1 中学生以下の子どもの状態別・月別傷者数
（令和2年12月～令和3年2月）



令和2年12月～令和3年2月の冬の3か月間、市内で交通事故によりケガをした中学生以下の子どもは40人で、前年を14人上回っていました。状態別・月別に見ると（図1）、ケガをした子どもの半数に当たる20人が、四輪同乗中の事故によりケガをしていました。

～シートベルト・チャイルドシートのご利用を～

シートベルトやチャイルドシートの利用をしていないと、車に乗っていて交通事故に遭った場合、死亡する危険性が極めて高くなります。

道路交通法では、6歳未満の幼児を車に乗せるときはチャイルドシートを着用させなければいけないことが定められていますが、6歳以上の子どもであっても、体格等を考慮してシートベルトとチャイルドシートのどちらかを適切に着用できるほうを選んであげましょう。



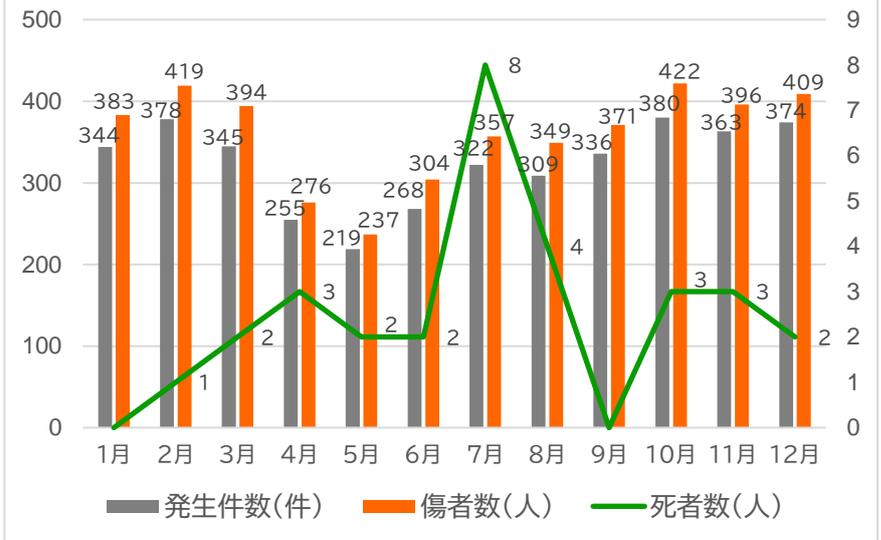
令和2年1年間の市内の交通事故発生状況を月別に見ると(図2)、秋頃から冬にかけて事故件数及び傷者数が増加していることがわかります。

札幌市では、12月以降本格的に雪が積もるなどし、路面状況が悪くなります。

子どもたちには、ぜひ冬の気候の特性に応じた交通安全指導を行いましょう。



図2 市内交通事故月別発生状況
(令和2年1月～12月)



◆冬の交通安全指導のポイント◆

●自転車には乗らない

冬道は滑りやすく、自転車の利用は大変危険です。冬期間は自転車を利用しないように指導しましょう。



●道路わきの雪山に登らない

誤って道路に滑り落ちる危険があります。雪山のかげからの飛び出しにも注意しましょう。



雪や氷の落下による事故も危険！
軒下で遊ばせないようにしましょう

●横断歩道以外の場所を渡らない、走らない

車は急に止まることができません。特に凍結路面では、ブレーキにより車が停止するまでの距離が長くなります。周りの状況や信号をよく見て、横断歩道のある場所を渡るように指導しましょう。また、転倒の可能性が高くなりますので、走らないよう指導しましょう。



●夜光反射材や、目立つ色の服を着用

日没時間が早いので、ドライバーから見つけてもらいやすくするため、夜光反射材を身に付けさせましょう。また、雪の中でも目立つように、できるだけ明るい色の服装をさせましょう。



☆交通安全4つの約束☆

道路をわたるまえにとまる 車がこないかみる 車の音をきく 車が通りすぎるまでまつ

ぴたっ



かっ



ぴーん



じっ…

